

2026年4月30日

120年以上前の博覧会に出品、黒漆塗・蒔絵が施された東京都港区指定文化財

「日本楽器製造株式会社製初期グランドピアノ」の修理事業が完了

～ 2026年5月1日、港区立郷土歴史館で展示再開 ～

ヤマハ株式会社（以下、当社）は、東京都港区の有形文化財 歴史資料に指定されている「日本楽器製造株式会社製初期グランドピアノ」について、港区から委託を受け、国立大学法人東京藝術大学大学院 文化財保存学 保存修復工芸研究室（以下、東京藝術大学大学院）とともに修理を行いました。約2年間にわたる修理がこのほど完了し、2026年5月1日より港区立郷土歴史館（所在地：東京都港区白金台四丁目6番2号）での展示が再開されます。



港区立郷土歴史館で展示されているピアノ

このグランドピアノは、2002年1月に港区有形文化財に登録され、2022年10月に同文化財に指定されました。日本におけるピアノ産業史的一幕を今日に伝える貴重な資料であるとともに、港区の歴史を知る上でも貴重な文化財とされています。

本ピアノには、現代のピアノにはみられない塗装、木工、鋳造、金属加工などの当時の技術が垣間見られます。今回の修理は、これらの貴重な情報を失わないよう、文化財修理の原則である「現状保存修理」の指針に基づき、関係者との協議・協力のもと慎重に作業を行いました。

当社は、歴史的な楽器の保存・修理を通じてその価値を維持・保護し、文化遺産の継承に貢献するとともに、楽器産業にとどまらない幅広い分野への理解を深め、後世に伝えたいと考えています。

●修理したグランドピアノについて

今回修理を行ったグランドピアノは、旧港区立氷川小学校で使用されていたもので、同校の廃止後、跡地での保管を経て港区立郷土歴史館に保管されていました。側板に施された蒔絵などの特徴的な外装が、『第五回内国勸業博覧会紀念写真帖』（1903（明治36）年）や『日本楽器製造株式会社現況』（1929（昭和4）年）に掲載されている写真と酷似していることなど、新たな事実が判明したことをきっかけに調査が進められました。その結果、港区文化財保護審議会の答申を受けて、2022年10月に同区の有形文化財に指定されました。以下は指定時の説明文です。

「日本楽器製造株式会社（現ヤマハ株式会社）製で、幅145cm、奥行185cm、高さ98cm（屋根を閉じた状態）、85鍵盤、標準的なサイズである。全体を黒漆塗（くろうるしぬり）とし、側板（がわいた）には金平蒔絵で有職模様を、金属フレームには唐菊草模様をあらわす、といった日本の伝統的技法を用い、曲線的な

譜面台や脚部など、豊かな装飾性が特徴である。旧氷川小学校が昭和5（1930）年の校舎建て替えの際に、同校の向かいにあった九条家から「皇太后使用のピアノ」として寄贈を受けた。九条家は大正天皇の皇后となった九条節子の実家である。フレームには「YAMAHA PIANO Co.」とロゴが入り、鍵盤蓋裏には「Yamaha Co.,」と筆記体で記され、響板には「1522」の製造番号が刻まれている。同社がグランドピアノを完成させたのは明治35（1902）年で、以後国内外の博覧会に漆塗蒔絵や梨子地七宝などの装飾をほどこしたグランドピアノを出品し、宮内省や文部省など官公庁への納入を行っている。宮内庁の記録と製造番号により、このピアノは同36年第5回国勸業博覧会に出品されたのち昭憲皇太后のお買上となり、貞明皇后に贈られたものであることが確認できる。

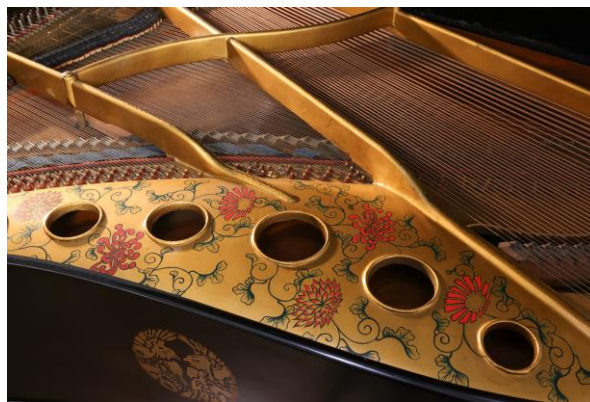
博覧会や皇室との関わりが考えられる最初期の国産グランドピアノであり、側板やフレームにみられる装飾は現存唯一のものと考えられる。日本におけるピアノ産業史的一幕を今日に伝える貴重な資料であるとともに、旧氷川小学校で長らく使われていたことなど、港区の歴史を知る上でも貴重な文化財といえる。」（一部修正あり）

●修理の概要

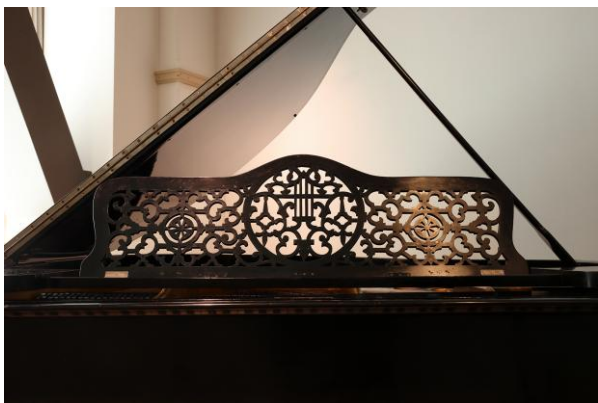
元来の機構や部品など、製作当時の状態を可能な限り維持し伝えることを最優先とする方針のもと、東京藝術大学大学院と当社が連携し修理を進めました。ピアノには過去にも修理が施された形跡がみられたものの、部品の交換が必要となる発音・演奏可能な状態に向けた修理は行わないこととしました。当初の部品や部材を可能な限り使用し、接着剤には天然由来のものを使用するなど、同大学院の指導のもと文化財の修理に適した手法を用いています。漆塗りによる外装のクリーニングや蒔絵の処置、木部の欠けなどの補修は東京藝術大学大学院が行い、当社は響板、弦、金属フレーム、アクションなどのクリーニング、および一部の鍵盤や木部の欠損部分の補修を担いました。



側板に金平蒔絵で描かれた有職模様



鮮やかな菊唐草模様の金属フレーム



優雅な模様が印象的な譜面台



欠損の補修を行った鍵盤

●修理の経過

2024年4月 港区より当社が受託
2024年7月 港区立郷土歴史館から搬出、当社掛川工場と東京藝術大学大学院で修理作業開始
2025年3月 当社掛川工場での作業完了、港区立郷土歴史館で修理作業開始
2026年3月末 全修理作業完了

●ヤマハ株式会社 ピアノ事業部 ピアノ開発部長 泉谷 仁（いずたに ひとし） コメント

港区が大切に受け継いでこられた歴史的なグランドピアノの修理に携わる機会をいただき、心より感謝申し上げます。修理の過程では、製作当時の技術者が残した構造や工夫を直接確認することができ、当社にとっても貴重な経験となりました。また、東京藝術大学大学院の皆さまと協働することで、文化財保存・修理特有の視点や技法に触れ、多くの学びを得ることができました。

こうした機会を通じて、歴史的価値を有する楽器の保存に微力ながら関わられたことを大変光栄に感じております。本取り組みが、港区の歴史・文化の発展に寄与するとともに、音楽分野にとどまらず幅広い産業文化を後世へ伝える一助となることを期待しています。

<参考情報>

港区文化財総合目録 日本楽器製造株式会社製初期グランドピアノ

<https://www.minato-rekishi.com/museum/2022/10/R04-03.html>

『第五回内国勸業博覧会出品審査概況』1903（明治36）年 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/801996/1/62>

『第五回内国勸業博覧会記念写真帖5』1903（明治36）年 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/801983/1/12>

『日本楽器製造株式会社の現況』1929（昭和4）年 国立国会図書館デジタルコレクション

<https://dl.ndl.go.jp/pid/1229206/1/54>

*文中の商品名、社名等は当社や各社の商標または登録商標です。

*掲載情報はすべて発表日現在のものです。発表日以降に変更となる可能性もありますので予めご了承ください。

■ 報道関係の方のお問い合わせ先

ヤマハ株式会社 コーポレート・コミュニケーション部 担当：川本

TEL. 050-3148-8660

ウェブサイト https://www.yamaha.com/ja/news_release/（取材申し込みや広報資料請求が可能です）
